

会 議 議 事 録

1 会議名	第1回 第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会
2 開催日時	平成29年7月27日（木曜日） 午後1時30分から午後3時20分まで
3 開催場所	中央図書館 講座室1
4 出席者名	(委員) 錦委員長 渡邊副会長 佐藤委員 会田委員 齋藤委員 (オブザーバー) 金澤教育部長 曾根教育総務課長 竹内学校教育課長 大矢子ども家庭課長 大野保育課長 伊津青少年育成課長 (事務局) 山田中央図書館長 梅沢館長補佐 石井奉仕係長 長瀬奉仕係主査 井口奉仕係主査 河田奉仕係主任
5 欠席者名	なし
6 議題	議事1 第一次長岡市子ども読書活動推進計画の検証について 議事2 第二次長岡市子ども読書活動推進計画(案)について
7 審議結果の概要	・議題1について 第一次長岡市子ども読書活動推進計画の検証について報告された ・議題2について 第二次長岡市子ども読書活動推進計画(案)について報告され、意見交換がされた

8 審議の内容	
事務局・梅沢中央 図書館長補佐	委員長・副委員長につきましては、策定委員会設置要領第5条第2項により、「教育委員会の指名」となっておりますので、事務局の方で委員長を錦先生に、副委員長を渡邊先生をお願いいたしました。
錦委員長	<p>それでは、ここからの議事は、次第に沿って錦委員長より進めていただきます。</p> <p>【議事（1） 第一次長岡市子ども読書活動推進計画の検証について】</p> <p>図書館から資料をいただいてから丹念に読みました。図書館に関するアンケートの集計結果、平成28年と平成24年の統計が出ていますが、とてもいい数字が出ていますのでこれからの読書推進に私は脈を感じているところです。推進運動がもっともっと普及して行って子どもたちが本に確実に近づいていくのではないかと考えています。かたわらに本をというタイトルですが、手ごたえを感じているところです。さっそくですが、(1) 第一次長岡市子ども読書活動推進計画の検証について、議事に入っていきたいと思います。説明をお願いします。</p>
事務局・長瀬主査	<p>平成25年に策定した現行の長岡市子ども読書活動推進計画の主な取組の成果を、年代別にまとめたものです。</p> <p>まず1番、乳幼児期における読書活動の推進についてご説明します。特に成果のあった事業として、ブックスタート事業、子育ての駅や親子サークルの活動支援、おはなし会普及の活動をあげました。ブックスタート事業では、読み聞かせボランティアの方々が読み聞かせの体験とともに、絵本を手渡しています。先ほど委員長からもご紹介いただきましたが、枠内にありますアンケート結果は、平成24年の1月と平成28年の12月に実施したものを比較したものです。このアンケート結果からも、プレゼントした絵本を活用している家庭が増えていることがわかります。</p> <p>次に子育ての駅や親子サークルの活動支援とおはなし会普及活動ですが、この5年間の間に子育ての駅も増え、おはなし会に参加できる機会も増えました。親子で読み聞かせを楽しむことにより、読み聞かせへの関心を深めることができたと思っています。</p> <p>枠内のアンケート結果にもあるように、おはなし会に参加したこと</p>

<p>ある人の割合も、増加しています。</p> <p>次は2番、幼稚園・保育園期における読書活動の推進です。</p> <p>成果のあった主な取組として、園内の読書環境の充実と、保護者への啓発、職員研修の実施をあげました。</p> <p>公立の保育園・幼稚園では、この計画が策定されたことがきっかけとなり、園内文庫の整備が進んできました。</p> <p>また、多くの園で読書に関する「園だより」を発行し、保護者の意識啓発に努めました。職員や保護者に向けて、絵本や読み聞かせの講座も多く実施されました。</p> <p>枠内に記しましたが、図書館からの絵本講座講師派遣だけでも、平成26年には3回だけであったのが、去年は10回と増加しています。</p> <p>次に3番、小学校・中学校期における読書活動の推進についてです。</p> <p>成果のあった取組として、読書活動の実施、図書館環境の整備、蔵書の整備、学校図書館の冷房の完備をあげました。</p> <p>この計画の策定により、市内の全小中学校で積極的に読書活動に取り組むようになり、読書の習慣化が図られました。また、図書館環境が整備され、有資格者が各学校図書館を巡回し支援するブックランドサポーター制度や、「夢づくりブックランド」事業による蔵書の充実、冷房設備の完備など、ソフト面・ハード面の両面から学校図書館機能の充実が図られました。</p> <p>このことは、枠内のアンケート結果にあるように、学校図書館の利用が、小中学生ともに伸びていることから成果があったとわかります。</p> <p>次に4番、図書館における読書活動の推進についてです。成果のあった取組として、テーマ絵本コーナーの設置と児童書の選書、おはなし会の開催、ヤングアダルトコーナーの充実をあげました。まず、テーマ絵本コーナーや児童書などの蔵書についてですが、展示を工夫するなどして、子どもが本を手に取りやすいように意識して取り組みました。また、おはなし会ですが、新たに日曜日の開催を増やしたり、スペシャルのプログラムを工夫したりするなど、図書館利用の促進に努めました。さらに、ヤングアダルトといわれる中高生世代に向けて、蔵書を整備し、利用の促進を図りました。こういった取組により、枠</p>

	<p>内に数字があるように、貸出冊数やおはなし会参加人数は、増加しています。</p> <p>このように、第一次計画の取組により、概ね順調な成果が認められました。そこで、第二次計画ではこの流れを継承しつつ、社会情勢の変化なども見据え、関係各課がより連携しさらなる読書活動の推進を目指します。以上です。</p>
委員長	では、ここまでで何かご意見ご質問のある方は、いらっしゃいますか。
委員（会田）	ブックスタートについてだが、プレゼントされている本は、何冊をどのような観点で選んでいるのか。
大矢子ども家庭課長	現在は4冊のうちから1冊を選んで頂いています。その4冊は図書館と協力しながら、ボランティアと一緒に2年に一度選定を見直しています。NPOブックスタートが作っている読み聞かせの20冊程度のお勧めリストの中から図書館と私どもと協力して選んでいます。紹介ですが、長岡市在住の絵本作家の松岡達英さんの絵本等がだいたい選定されているような状況です。
委員長	ブックスタートの子どもの年齢は何歳くらいですか。参加するのは何パーセントくらいですか。
大矢子ども家庭課長	5か月から7か月の赤ちゃん相談の際に健診全対象者にご案内を差し上げ、健診会場までおいでいただいております。身体計測や保健師の相談の際にブックスタートのコーナーを設けて、その中で読み聞かせをしながら、絵本を選定していただいております。
委員長	ほとんどきますか。
大矢子ども家庭課長	数字は無いが、ほとんどの方に参加していただいております。都合がつかない場合には次の回でも大丈夫としていて、どうしても出にくい方

<p>委員長</p>	<p>には、母子保健推進員等が個別に訪問しています。その時に絵本を紹介をしてフォローしています。</p> <p>必ず読み聞かせをしてから手渡すということですか。</p>
<p>大矢子ども家庭課長</p>	<p>そうです。</p>
<p>委員（齋藤）</p>	<p>私はブックスタートで本を渡す方のボランティアをしたことがある。合併して長岡市になってから、制度がよくなっていいなと思う。自分の子育ての時には、寺泊町だったので午前中も図書館が休みで、行きたくても行けなかったのが今のお母さんたちはいいな、うらやましいなと思っている。</p> <p>ブックスタートが始まった時に比べると、冊数が少なくなったと思う。私はボランティアを途中でやめてしまったが、初めのうちはもうちょっと選ぶ種類があったように思う。</p>
<p>事務局・石井係長</p>	<p>いっぱいありすぎて選べないといった意見もあったみたいです。今は兄弟がいるからその子がもらった本があるといった声もあるので、プレゼントする本は毎年考えていかないといけないと思います。</p>
<p>委員（齋藤）</p>	<p>小学校の本を見るとうちの子どもの時は統合されて、田舎の小学校から本がきたが古いと感じた。補修も満足に行われていないような状態のため子どもたちからは選ばれにくいと思う。私の子どもが小学校の時だったので今 19、20 歳の子どもが小学生の時の話だが、今はどうなのだろうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>いまはブックスタートのお話を中心となりましたが、ほかの幼稚園や保育園の図書室の充実というのは、長岡ではどんなふうになっているのでしょうか。</p>
<p>大野保育課長</p>	<p>公立保育園・幼稚園で申しますと、図書室というような独立した専門</p>

	<p>の部屋は設けていないのですが、保育室やホールに絵本コーナーを設置したり、使用していない保育室に絵本環境を整えている園もあります。もともと蔵書の冊数は多くはありませんでしたが、この一次の子ども読書活動推進計画を受けて、絵本購入費用を充実させました。その結果だいぶ冊数は増えました。2か年に分けて購入したのですが、最初の年は一律に、2年目は子どもの数で予算を上下させて購入しました。あと私立の保育園や幼稚園については、それぞれの法人の特色が活かされて本が充実しているところもあります。東光こども園のように本が充実した園もあります。</p>
<p>委員長</p>	<p>図書室が充実している園とそうではない園というのがありますか。</p>
<p>委員（佐藤）</p>	<p>子どもたちには本は欠かせなくて、生活の一部と考えている。東光幼稚園は3年前に建て替えたが、かつては廊下の一部にあるような位置だったが、今は階段下のスペースに狭いけれど落ち着けるような場所として作っている。狭いけれども子どもたちはいつも誰かしらじっと座って自分なりの時間を楽しんでいるところがある。スペースについては園によって差があると思う。東光幼稚園は松岡（達英）さんのご縁があり、その本があるので子どもたちも喜んでいる。</p>
<p>委員長</p>	<p>絵本が1冊もないという園もかつてあったが、少しずつ普及している。選書されているという園もある。小中学校における読書活動についてはどうでしょうか。小中学校については何か意見はありませんか。</p>
<p>曾根教育総務課長</p>	<p>委員からご意見のあった蔵書の内容が古いというお話ですが、今、文部科学省からの学級数に応じた標準冊数という基準があり、各自治体はその数を目指すということになっています。長岡の場合も昨年度までの「夢づくりブックランド事業」という各学校の標準規模まで冊数を増やすという事業があり、昨年末で国の基準は満たすことができました。</p> <p>現在、国の方では今年度から5か年計画で、蔵書数だけではなく、よ</p>

<p>委員長</p>	<p>り新しい情報を子どもたちに知ってもらおうという観点から蔵書をどんどん新しいものに変えていきたいと思いますという方針の新たな5か年計画が行われています。長岡市も一定の数が配備されたので、これからは古い本を新しいものに変えていく方向にシフトしているところです。</p>
<p>竹内学校教育課長</p>	<p>選書をする会議などは開いているんですか。</p>
<p>委員長</p>	<p>学校の中に図書担当職員が1名いて、その方と各学年のそれぞれの先生との間で相談してもらっています。そのほかに12学級以上の学校には司書教諭という職員がいて、その先生が中心となって学校での取組をけん引してもらっています。各学校の図書委員会で図書室の利用状況や希望を踏まえ、教師が考えるものと児童生徒が読みたい本とを勘案しながら提示されていると考えます。</p>
<p>事務局・長瀬主査</p>	<p>どうもありがとうございました。他に何かご意見はありますか。 ないようなので次の議事に移ります。</p> <p>【議事（2） 第二次長岡市子ども読書活動推進計画（案）について】</p> <p>では、続いて（2）第二次長岡市子ども読書活動推進計画（案）について、事務局より説明いたします。</p> <p>1ページに計画策定について記してあります。長岡市では、平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成25年に「長岡市子ども読書活動推進計画」を策定しました。計画期間が今年度で終了することから、現行計画の成果と課題を踏まえ、第二次計画を策定します。期間は平成30年からの5年間とし、対象は0歳からおおむね18歳までの子どもとします。</p> <p>4の基本方針としては、「成長段階に応じた読書環境の整備を進めます。特に、子どもの読書習慣の形成に大きな影響をもつ乳幼児期における家庭での読書活動に重点をおきます。」、「子どもの自主的な読書活動を推進するために、家庭・地域・学校・図書館等の関係機関の連携</p>

<p>曾根教育総務課長</p>	<p>を強化します。」、「情報メディアの普及による社会情勢の変化を踏まえ、読書に親しむ機会の充実を図ります。」以上の三つとします。</p> <p>2 ページ、3 ページについては、成長段階に応じた取組について年齢順にまとめました。</p> <p>4 ページ目からは、各年代の取組が書かれています。</p> <p>項目の1 で一次計画の取組と成果、2 で課題、3 で今後の方向性と数値目標、4 で具体的な取組について記しています。</p> <p>次に世代別の活動について説明させていただきますが、学校教育課長が途中退席いたしますので便宜上小中学校の取組を先に説明させていただきます。10 ページをご覧ください。小・中学校期における読書活動の推進についてです。</p> <p>課題としては、蔵書や管理システムなど学校図書館の整備とメディアに関することをあげました。</p> <p>学校図書館は、利用頻度と本の痛みが比例し、利用が活発なほど整備がとても重要になります。</p> <p>そして、「読書に関するアンケート」では、本を読むことが嫌いな児童のうち約 20%の児童がテレビやゲームが楽しいからと答えています。また、生活の中でもラインなどがかかせなくなっている現状を耳にします。</p> <p>そこで、方向性としては、読書環境の充実につとめ、メディアの時間を上手にコントロールし、読書に親しむ時間を多く提供できる取組を考えました。</p> <p>具体的な取組について、蔵書の構成や管理システムの件について、曾根教育総務課長から、説明をお願いします。</p> <p>13 ページの具体的な取組のなかから説明します。先ほど説明したとおり、蔵書数はある程度達成したので、今後は古くなった図書の更新に力点を置いて整備を図っていきたいと思います。続いてシステムの整</p>
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>備についてですが、市内の小学校 12 校と中学校 6 校の学校図書館管理システムを導入しているという状況です。蔵書の管理と貸出業務の中で、そのうち小学校 5 校と中学校 1 校についてはモデル校として学校間の蔵書の状況をインターネットで検索できるというシステムになっています。12 ページの課題にもシステムの整備とあるとおり効率化を図れる部分は効率化を図ることで、図書の紹介、読み聞かせなど読書指導の時間の確保、環境整備が急務であるので本来あるべき方向に傾注できるような体制を図るためにシステム化を図っていきたいです。</p>
事務局・長瀬主査	<p>その他学校図書館の件について、竹内学校教育課長から説明をお願いします。</p>
竹内学校教育課長	<p>引き続きまして具体的な取組の中からいくつか紹介させていただきます。13 ページの読書活動についてですが、長岡市内の全小中学校で行っていますが実態として、週 2 回から 4 回朝の時間帯 10 分から 15 分を朝読書の時間と決めて実施をしているとのこと。始業前ということで静かな時間に本と向き合うことができているというのが現状です。</p> <p>次に読書旬間ですが、4 月 23 日の子ども読書の日と 10 月の読書週間の大きく 2 つありますが、長岡の現状としては秋の読書週間の方が図書委員と協力して活動が盛んと聞いています。生徒同士での本の紹介を行ったり、図書委員がブックカバーをプレゼントしたりしています。</p> <p>ボランティア活動についてですが、市内の学校は保護者の方や地域の方から参加してもらって小学校 49 校、中学校 3 校でボランティア活動を実施しています。本の補修や書架の整理などの他にも読み聞かせのボランティアなどたくさんご協力頂いています。</p> <p>次に 14 ページの司書等における資格者の巡回による支援ということで、現在長岡市では司書または司書教諭の資格のある 9 名の方からすべての学校を定期的に回っていただいて、学校の司書教諭や図書館担当を中心とした職員と協力して学校図書を生かした蔵書整備から図書の活用までソフト面を含めて支援してもらっています。</p>

	<p>最後に学校図書館を活用した授業の実施ということで総合的な学習の時間などで調べ学習の場として図書館が活用されています。6年生では世界の様々な地域の学習ということで、自分で調べたい国を決めてそれを紹介する新聞を作るために図書館の蔵書を活用していたり、国語の教科書で紹介された作者の本を読んでみて感想を話し合ったり、福祉に関する授業で身近なバリアフリーについて情報を調べるなどという様々な活用方法があります。一例を紹介しましたが、各学校様々な取組があります。</p>
事務局・長瀬主査	<p>最後に児童館の取組について、伊津青少年育成課長から説明をお願いします。</p>
伊津青少年育成課長	<p>14 ページ一番下になります。児童館における読書環境の整備ということですが、児童館には絵本や読み物をそろえて遊びに来た子どもたちが自由に読めるようにしています。児童厚生員に対して読み聞かせの講座を設けて、読書に関する活動の普及に努めています。</p>
事務局・長瀬主査	<p>小中学校の部は以上になります。4ページに戻ります。</p> <p>まず乳幼児期における読書活動の推進についてです。</p> <p>一次計画の取組と成果については、先ほど資料1でご説明したとおりです。</p> <p>課題としまして、メディアに関することと保護者自身が読み聞かせの経験が少ないことをあげました。メディアについては、世論的にも問題になっていること、検診時の待ち時間の様子や子育ての駅での過ごし方などを保育士から聞くと、メディアを離せない保護者の姿をよく見るとのことからです。また「読書に関するアンケート」の中で、読み聞かせをしない理由として「読んでといわれなから」という回答が増えていることや、保育士の話などから、保護者自身が読み聞かせの体験を知らない人が多いということがわかりました。</p> <p>そこで、今後の方向性としては、保護者の啓発をすすめていくような取組を考えていきます。</p>

<p>大矢子ども家庭課長</p>	<p>具体的な取組については、大矢子ども家庭課長から説明します。</p> <p>5 ページから、まず子育ての駅を紹介させていただきます。長岡市では 13 か所に子育ての駅を設けています。すべての施設で図書コーナーを設置しまして、来館した子どもに自由に本を読んで頂けるようにしております。またそれぞれの施設で読み聞かせの時間を設けて、本を読む楽しさや読み聞かせの楽しさについてお伝えしております。</p> <p>中でも大手通にありますちびっこ広場には、3 階にまちなか絵本館があります。未就学児を対象とした子ども向けの本や保護者向けの子育ての本など幅広い種類の本を約 1 万 3 千冊用意しています。また図書館の司書の方に来ていただいており、協力して本を選んだり本に関する催しなどを行っています。子育ての駅には保育士が常駐していますので読み聞かせは毎日開催し、妊娠中のお母さんへのプレママ講座などを開催することもあります。</p> <p>次にブックスタートの説明です。ブックスタートについては赤ちゃん相談の時の他にまちなか絵本館でも実施していきたいと思っております。ブックスタートについてはボランティアさんにもご協力頂いております。趣旨を説明した後に読み聞かせを行い、絵本一冊と読み聞かせのアドバイス集やブックリストの入ったパックをプレゼントしております。</p> <p>また、図書館と協力しながら資料に記載してあるとおりの取組を行っております。</p>
<p>事務局・長瀬主査</p>	<p>次に 7 ページをご覧ください。幼稚園・保育園期における読書活動の推進についてです。</p> <p>課題としては、親子で本に親しむことが減っていることをあげました。「読書に関するアンケート」では、保護者自身が本を読む家庭が減っていることがわかります。またメディア利用の低年齢化も進み、夜の寝かしつけにテレビやスマホの動画を見せるなどの話も聞かれるようになりました。読書を習慣づけていくには、親が読書をする姿をみせることや、親子で読書を楽しむことが重要とされています。</p>

<p>大野保育課長</p>	<p>そこで、方向性としては、保護者、保育士、幼稚園教諭、園児にかかわる大人すべてが、読書に関する関心を深められるような取組を考えていきます。</p> <p>具体的な取組については、大野保育課長から説明をお願いします。</p> <p>具体的な取組について9ページの保護者への啓発を中心に説明いたします。一次計画では絵本環境の充実、職員の絵本に関する研修の実施、園だより、絵本だより、講座などによる取組を行ってきたところです。そのなかで絵本の貸出を積極的に行って絵本に親しむ機会も増えてきているところですが、アンケートによると平成24年に比べると保護者の読み聞かせの日数は増えてはいるもののまだまだ忙しさや無関心からなのか子どもに読み聞かせをしない保護者が多いのが現状です。</p> <p>そこで今後の方針としては、家庭で絵本を読む日数が週0～2日の割合を減らして週3から4日の割合が5%増の30%に増やすことを目指して、絵本を読んでいない保護者に対して積極的に絵本の楽しさを伝えるようにしていきたいと思います。手立てとして、保育参加の際に読み聞かせの体験をしてもらい、子どもたちが楽しそうにしている様子を見てもらうこと、あるいは保育参加や行事などで来園した際に保育士から絵本を読んでもらうことを体験していただき、読んでもらうことの楽しさ、心地よさを感じていただきたいと思っております。現在保育園で行っている保護者向けの絵本講座は好評をいただいております。絵本が親子の触れ合いの時間を豊かにしてくれることを再確認したので、早速図書館に出かけたいというような声を多くいただいております。読んでもらう心地よさを体験できるようにするために、園でも保護者に対して読み聞かせをするという機会を設けていきたいと考えています。</p>
<p>事務局・長瀬主査</p>	<p>次に、図書館における読書活動の推進についてです。</p> <p>課題としては、様々な世代にわたって図書館の利用促進を図ること、社会情勢の変化に応じて、親子の接し方や読書の進め方を検討し、読書活動の推進を図ることをあげました。</p>

<p>山田中央図書館長</p>	<p>図書館の利用は全市民の2割程度に過ぎません。そこで方向性としては、地域や学校・保育園・幼稚園との連携を深め、より多くの市民の方に利用される図書館を目指す取組を考えました。</p> <p>山田中央図書館長から、説明いたします。</p> <p>それでは17ページをご覧ください。</p> <p>図書館では様々な取組を行っておりますがその中からいくつかご紹介したいと思います。</p> <p>まず館内の活動ですが、子どもに親しんでもらう活動として「としょりんピック」といった催しを行っております。これはクイズに答えるスタンプラリーと、たくさんの冊数を読み記録する2種類があります。本の冊数に応じて記念品をプレゼントしており、励みになっています。子どもたちが夏休みの間に多くの本を読んでもらえるように毎年継続して開催しています。その他にお話し会などを定期的に行っています。季節絵本、テーマ絵本といったコーナーでは現在、県立歴史博物館でやっている企画展にちなみ、昔のくらしに関連する本を設け100冊程度展示しています。他の施設と連携しながら図書館に訪れた子どもたちがコーナーの本を手にとって、本に親しむきっかけ、あるいは別の視点からも興味がわくような仕掛けを図書館内随所にしております。</p> <p>続きまして18ページの地域への支援活動という項目では、移動図書館米百俵号という名前のバスが現在2台巡回しています。このバス2台が102か所のステーションを回っておりまして、非常に好評を得ています。地域全体に図書館網を巡らせ、図書館から離れた地域の方にもご利用いただける仕組みを構築しております。</p> <p>18ページ下ほどの幼稚園、保育園、小学校、中学校への支援活動といった項目についても、先ほど各課長からご説明いただきましたが、それぞれの団体への支援活動をさせていただいております。具体的には自動車文庫の各ステーションで利用させていただいているほか、団体貸出として授業用のセット貸出やそれぞれのテーマに応じた資料の貸出をしています。次に19ページに移りまして、各幼稚園教諭、保育士、教員へのサポートということで市立図書館の司書が各学校や要請に応</p>
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>じて研修に出向いておりまして、学校図書館の運営などのサポートを行っております。</p> <p>19 ページなかほどの広報活動につきましては、様々な機関誌、情報誌を発行しております。また、ホームページの運営もしております。そういったビジュアルの面からもご利用いただいております。このように図書館といたしましては、世代別に各関係機関と連携しながら長岡市全体の読書活動を子どもだけにかかわらず、市全体で本に親しみ、読書を進めていくといったような仕組みづくりを図書館として施策的に計画していくように努めてまいりたいと思います。</p> <p>皆さんそれぞれにお考えとかご意見とかあるかと思いますが、それについてお聞きしたいと思います。</p> <p>小学校での読書活動といいますか、子どもたちが今どんな状況に置かれているのか、本がなかなか伝わらないということもあるようですが、渡辺委員どうでしょうか。</p> <p>例えば朝の読書活動といったことについては、本校も朝会がない火曜日以外の週四日間各15分間やっている。昨年の後半からは、朝であれば読み聞かせにいけるという方がいて、昼ではなく朝の時間に読み聞かせに来ていただいた。今年はさらに数が増え、朝に読み聞かせをしていただくといった取組も始めている。そして、あくまでも本校のことしかお話できませんけれども、毎月第3木曜日を家庭読書の日というふうに設定をして、その日はノーメディアデーと合わせてメディアコントロールをして、その時間を読書、親子読書として読み聞かせでも、同じ本を読むでも、違う本を読むでもいいとして、それに関わるようなお便りを図書館便りという形で出している。</p> <p>新しい学習指導要領が告示されて、いま非常に厳しいと思っている。というのは、内容的な面ではなくて、いかにその時間を生み出すかというところに非常に厳しさを感じている。新しい指導要領に基づくと小学3年生以上は、来年度以降は週にもう1時間増やさないといけない。といった状況の中で、補充学習のような子どもが少しでも学習面で自信を持てるようにといった取組もやっつけようとする、どうやって時間を生みだせばいいのか、どこにどういった時間を配置すると</p>
委員長	
委員（渡邊）	

	<p>良いのか、ということを職員で話をしている。朝の読書は一日のスタートとして欠かせないと、職員一同共通理解として取り組んでいるのでこの時間を削るつもりはないのだが、こういった時間、こういった意識を、いかに職員が共通意識を持ってやっていくことができるかが各学校に課せられた課題かと考える。ブックランドサポーターの方やボランティアをはじめとする方に、非常に大きなご支援をいただいているので、そういった中で図書館がよい環境になっていることを子どもたちに伝えるとか、あるいは保護者に伝えることに積極的に取り組んでいく必要があると考えている。</p> <p>また、調べ学習などでも学校は図書館を有効に活用させてもらっているし、絵本を中心とした中で低学年の子どもたちが楽しんで過ごしているといったこともある。ブックランドサポーターから子どもたちの興味関心をとらえた本の紹介などをやっていただいて、非常に好評なので、そういった活動の継続、充実をお願いできればありがたい。</p>
委員長	<p>教育総務課長の曾根さんは、これらのことについてお考えはありますか。</p>
曾根教育総務課長	<p>どのように、現場のニーズに合ったものをしっかり配置していくかというところだと思います。ブックランドサポーターさんが各学校を訪問して学校の司書教諭等々からいろんな意見を吸い上げる中で、どういう形でどういうものを配置すべきなのか、あるいはどういう風にシステム化するかといったハードの整備と、いわゆるソフト展開の両輪が大事だと思います。私としてはハード整備といったところでどこまで現場にあったマッチングができるか考えていきたいです。</p>
委員（渡邊）	<p>16ページの2番の課題のところですが、「多くの方から図書館を利用していただけるよう働きかける必要があります」という言葉がある。学校として、子どもたちにどういう情報を発信していけばいいのか、あるいは保護者に発信していけばいいのか、地域に発信していけばいい</p>

	<p>のかということに悩んでいる。環境整備が進んでいるし、ボランティアの方も積極的に活動しているが、それが即大きな数字となって、変化となって見えてこない現状や、積極的にノーメディアや家読、家庭読書の日と働きかけはするが、どうしたらそれがしっかり位置づいていくのかということにややジレンマ的なものを感じる。</p> <p>そうすると、どういった情報発信をしていけばいいのか、どういう働きかけをしていけばいいのか、先ほど申しあげた16ページのこと具体的な取組の中で働きかける必要があるということだが、では働きかけとしてどこをどう変えて取り組んでいくのか、どういったところが変わってくるのか知りたい。</p>
委員長	<p>今の渡邊委員の質問に関して何かご意見があればお願いしたいと思います。</p>
委員（佐藤）	<p>私どもとしては「お母さんに手にとってもらって」という所が大事だと思っている。それにはブックスタートはすごくいい試みだと思っている。実際にお母さんたちが「こんな本もらったんですよ」とお話を聞かせてくださることがあるが、「繰り返しのある本とか大好きですよね」と言うと、子どもはこんな本を喜ぶとお母さんたちが気づく。一冊の本を何回も何回も読んで、繰り返し読み聞かせることが子どももお母さんも笑顔で良い時間だなと、またこの時間を増やしたいなと気づく。今は忙しいお母さんたちも多いが、そんな中でもやっぱりその気づきを生む一冊が大事だなと思う。実際に「子どもが言葉を覚えました」というのが嬉しくて聞かせてくださることもある。</p> <p>園の1歳児の取組だが、子どもがすごく好きで何回も読んでと言っている本を部屋の壁においている。本を写真に撮ってこんな反応がありましたよとか、こんな言葉を喜んで繰り返していますよということをお迎えに来た時にお母さんに話をしたり、パラパラと手にとってもらったりするために、こういった試みをしている。いろいろなことの充実とプラスお母さんたちに投げかけていくというのが、子どもたちが絵本を好きになる良いきっかけになると考えている。</p>

委員長	<p>保護者、お母さんに絵本の楽しさを伝え、お母さんが絵本を子どもに読んであげるとい、まずは保護者にとというのが大事だという意見が出ましたが、ほかに何かございますか。</p>
山田中央図書館長	<p>さきほど、働きかけといったようなお尋ねがあった中で、図書館の利用自体は、県内でも貸出件数などは年々伸びています。例えば昨年度の統計になりますが、図書館の貸出件数は県立図書館では年間51万冊で長岡市立中央図書館は75万冊、新潟市立中央図書館ほんぽ一とが121万冊と、貸出件数だけ見れば長岡の中央図書館は県内2位の貸出冊数を誇っております。この話が直接結びつくわけではありませんが、より図書館に親しんでもらうために、例えば広報活動を具体的にもっと充実するものにするなど、子どもたちが目に見えて実績がわかるような取組などが分かりやすいと思います。</p> <p>例えば、学校の朝読書とか継続的にやっていることはすぐに結果は出ないかもしれませんが、読書というものは、おはなし会の参加人数が増えたとか、そういった地道なところからしか結果が表れてこないものです。今日お示した二次計画の案というのはたたき台なので、また今日お話のあったような結果が分かりやすいような取組を今後も検討していきたいと考えています。</p>
委員長	<p>そのほかに何かありませんでしょうか。</p>
委員（会田）	<p>長岡市の取組として、幼いうちから保護者に積極的に働きかけていくというのが素晴らしいと思った。小さいうちは絵本に対する興味の個人差なんてほとんどないはずだから、保護者や園の先生から一方的ではあるが働きかけてもらうのが、とりかかりとしては間違いないと思うので、これを継続していくと結果が出ると思う。しかし、小中学校に入った場合に、いつ図書室に行くかということになる。</p> <p>私は中学校の教員だったが、思い当たるのが昼休みしかない。30分の昼休みの中で、委員会活動やグラウンドで体を動かすなどの選択肢の</p>

<p>委員長</p>	<p>中で、図書室を選択し、短時間で読みたい本を選ぶというのはなかなか難しいと感じている。町の図書館などに行くと、昆虫のシリーズや作家の本がわかりやすく紹介されていたり、また本も置き方を工夫し内容が紹介されたりしている。それだけで短時間で本を選べて、それが自分の探していたものではないとしても、とりあえず借りるきっかけになるので、公の図書館を利用する際は感心している。</p> <p>朝読書のことだが、渡邊委員の小学校と同じで、朝会がないときに15分間やっていた。先生方ももちろん読んでもらわなきゃだめだと思う。見張っているだけでなく、なんでもいいのでみんなで一生懸命本を読む時間ということでやっているが、学力向上というのもあって、テスト前は朝読書ではなく朝学習の時間とするのもしょうがないと思える現場の事情があった。</p> <p>それから、図書委員会だが夏休みなどの長期休みに2、3冊しか貸し出さないのではなく、冊数無制限で借りられるということにしたが、個人差があった。無制限にしても振り向いてくれないという子もいるしいっぱい借りていく子もいる。人生を豊かにする一つの手段として読書に親しむというのがあるわけで、保育園の時に会う子もいれば、小学校、中学校の遅咲きの人もあるかもしれないが、何かしら周囲の人が一生懸命になってくれている時期にそこに乗っからないと、大人になってから本好きになるというのはなかなかないと感じている。時間はかかるかもしれないし数値にも出ないかもしれないけれど、これはやっていくべき活動だと思う。</p> <p>私個人の話をしませんが、確実にこれは読み聞かせの取組は定着しつつあるなと思ったのは、今から10年前になります。新潟大学の発達心理学の先生から頼まれて絵本のお話をしているが、ある有名な絵本について、読んでもらったことがあるか講義の学生に聞いたところ、10年前はまばらで驚いたが、2、3年前に同じ質問をした時はほぼ全員が手を上げた。これは確実に読み聞かせなどをやっていただいているボランティアさんなどの活動の成果だと思います。また、ボランティアの方たちにも県の生涯学習課が毎年5か所くらいで講座をやっている</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>が、そこで聞くとボランティアの方たちは「自分が小さい時にこんな絵本はなかった、こんな絵本に出会ったことがなかった、でもボランティアをやることによってこの本に出会うことができ幸せだ」とおっしゃられていました。しかも読み聞かせをすることも楽しいと言って生きがいとしている。そうするとこの読書推進の中で大人も子どもも、地域も学校も図書館も一丸となって推進運動をしているということは、絶対に確実に成果が表れていると私は思います。全然絵本を知らなかった10年前と比べて、最近の学生はどれもこれも知っていて、誰に読んでもらったか聞くとボランティアの方、保育士そしてもちろん両親祖父母と返ってくる。ということは推進運動をやっている成果は少しずつでも表れていると確信をもって言えます。非常に時間はかかるけれど、これはずっと続けてやっていきたいと思っています。地域で読み聞かせをやっている人も少なくなっているはいません。むしろ、多くなっています。</p>
委員（渡邊）	<p>9ページで、保護者への啓発の新規事業で書かれている中身がとても素敵だと思った。読み聞かせは、お父さんお母さんご家族の方にも是非その心地良さをと書かれている中に、小学校中学校でも読んで聞かせることの心地良さというものを経験していただきたいと思っている。それで小学校として、子どもたち自身も読んで聞かせることの心地良さ、あるいは読んでもらうことの心地良さというのをぜひ経験させたいと思う。</p> <p>まだ回数は多くないが、ペア学年というのがあって、そのペア同士で読み聞かせをしあうという取組を今年から始めた。自分で本を選んで、これなら喜んでくれると考えて、読んであげるということを小さいうちから経験させるというのも、効果的なのではないかと感じながら進めている。これから小学校に上がってこられるお子さんの保護者が、読み聞かせそのものの心地良さを感じながら小学校に上がってきてくれるといいと思う。</p>
委員長	そのほかに意見はありませんか。保育課長の大野さんはどうでしょう

大野保育課長	<p>か。</p> <p>保護者への啓発ということでいろいろとお話が出ておりますが、やはり保護者の中にも本を読んでもらった経験がないという人もいます。保育士から本を読んでもらうことで心地良さを感じてもらい、自分の子どもたちへつながっていくということを聞いておりますので、保護者への啓発はすごく大事だということを感じています。実際保護者に対する絵本の講座のときに、ボランティアの方から子どもの本を読んでもらうこともあり、保護者も読み聞かせを聞いて涙を流して感動するということが聞いておりますので、そういう機会を作ることが大事かなと思っております。</p>
委員長	<p>図書館の方はどのように考えていますか。石井さんどうでしょう。</p>
事務局・石井奉仕係長	<p>私も読書活動が進むなかで、中高生が図書館に来ないということが問題としてあります。小学校までは親御さんと一緒に来られるみたいですが、中学校になると皆さんすごく忙しくなってしまって近くの図書館に行く暇も惜しいようです。あとヤングアダルトという世代に向けた本を収集しいろいろ呼びかけてはいますが、本を読む子と読まない子の差が出ています。幼児期からの読書の習慣がある子はその後も図書館を利用してきているようなので、子ども読書活動推進計画によって、ブックスタートから始まって、本を読む生活習慣を身につけて、ずっと図書館の利用者になって頂ければと考えています。</p>
事務局・長瀬主査	<p>朝読書の本の用意の仕方ですが、小学生は恐らく学級文庫の本から選ぶと思いますが、中学校では多分自宅の本を持ってきているのではと思うのですが、どうでしょうか。</p>
委員（会田）	<p>それでもいいし、学級文庫も作っている。それでないと図書室に来ないので、委員会活動として、学校図書館の本を図書委員が選んで学級文庫に置いている。生徒が読みたいと思う本は生徒しか分からないの</p>

事務局・長瀬主査	<p>で、委員それぞれでどんな本が良いか考えて持っていくように言っていた。</p> <p>一次計画の時に、中学校にも何かしらの働きかけができないかということで、図書館で作っているヤングアダルト向けの広報紙を中学校の1年生に全員配布することにしました。とりあえずでも、選ぶ本の情報を届けた方がいいと思ったからです。どこかしらで図書館の情報を得てもらえるといいと思って始めた取組で、二次計画ではもう少しステップアップできるかなと思っているところです。</p>
委員長	<p>その他に何かありますか。</p>
委員（会田）	<p>保育園と小学校の先生に質問がある。中学校ではメディアの使用が頻繁になってきて、正直、本どころではないというのがある。PTA総会など、親御さんへの働きかけがメディア使用のことになっていく。幼稚園・小学校ではお母さん方にメディア使用の働きかけはしているのか。働きかけのバランスが崩れていっているような気がしている。</p>
委員長	<p>では、佐藤委員からお願いします。</p>
委員（佐藤）	<p>私も高校生と大学生の子がいるので、すごくおっしゃりたいことは分かる。やはり小さい子は本が好きというのは間違いない。自分で読むのも読んでもらうのも大好きだが、やはりお母さん方は忙しいからスマホを渡したり、タブレットを渡したりしてしまう。2歳くらいの子でもササッと使えるので、その場で「ダメ」ということを言わないといけない。後はお母さん達にもページをめくる喜びを知っていただきたいので、絵本ボランティアというのを毎年募って実際に週一度くらい来ていただいて、絵本の修理などなるべく本を触ってもらうということをしている。メディア利用の低年齢化は止められないとは感じているが、見かけたらその場で注意するようにはしている。</p>

委員長	渡邊委員、小学校はどうでしょうか。
委員（渡邊）	メディアコントロールは必要で、その取組は私の学校は西中学校の学校区であるが、その学校区全体でやっている。中学校のテスト期間に合わせることもやや多いかなとは思いますが、そんな中でメディアから離れて、中学生はいかに勉強するか、小学生は読書、あるいは学習を中心とした活動をする活動をしている。あとはだいたい5年生くらいから専門家に来ていただいて、メディアの便利さと危険性について話をしてもらうことがある。
事務局・梅沢中央 図書館長補佐	昨年度、長岡市全体として、インターネットやスマホなどの取扱いを保護者や子どもたちに対してどういった方向で啓発していくのかということを考えました。10ヵ月検診や3歳児検診の機会をつかってお母さんを対象に、小さいうちからテレビなどを2時間以上見ないようにしましょうということを伝えています。また保育園や小学校でも取組を行っていますし、特に長岡だと幼稚園や市P連においても力を入れてもらっていて、各学校でスローガンを作ってそういった取組もしています。それぞれだけではなくて長岡市の教育委員会全体としての取組があります。
委員（会田）	そうですね。どちらも大事ですね。本といっても一方誘惑的なものもあるので、どちらも整備していくというのが効果的だなと思います。
委員長	なかなか子どもをメディアから引きはがして読書に向かわせるのが難しい時代になってきています。なんとかしたいという思いで皆さん集っていただいたかと思うのですが、良いアイデアなどありましたら忌憚なくお話ししていただきたいと思います。図書館の方にもお聞きしたいです。井口さんどうですか。
事務局・井口主査	子どもたちに接していて、やはり小学生になるとゲームなどをします

	<p>し、高学年になると児童によってはスマートフォンなど使うことはあると思います。それに集中することがいけないことだとかメディア使用をセーブする心は持っていないので、どこかのタイミングでそれを伝えていくのが大事だなと思っています。どうしても強い印象をもつものに子どもは目を向けやすいので、そういったものにどういった危険があるのかななどを定期的に伝えていく必要があると思います。</p> <p>ただ、それから読書に目を向けるためにはどうしたらいいか、それが本当に地道なことで、読書にはこういった楽しみがあるよということを、なんとかして各世代に伝えていくことが仕事だと思っています。楽しい本は世の中にたくさんあります。その楽しい本の楽しさをコツコツ伝えていくのが図書館の役割なのかなと思います。</p>
委員長	<p>どうもありがとうございます。河田さんはどうですか。</p>
事務局・河田主任	<p>お話を聞いて、ノーメディアデーなど良い取組だなと思っています。メディアを見ない日を作るとかメディアの危険性を伝えるというのは子どもに直接言ってもなかなか難しく、刺激の強いものにひかれてしまうところもあるので、やはり親御さんに伝えていかなければいけないのかなと思いました。</p> <p>あとはそこから読書や読み聞かせというところに興味をもってもらうには、図書館からも働きかけをしていかななくてはいけないと思いますし、保育園や小学校から依頼をいただければ図書館から職員が出張して読み聞かせを行いますので、そういう所で本の楽しさに触れてもらえると読書への興味も向くのかなと思います。</p>
委員長	<p>その他にも意見がありましたらおっしゃってください。</p>
金澤教育部長	<p>さっきからSNSの話が出ているんですが、SNSが子どもたちの多くの時間を奪っているのは確かでその対策も必要だと思います。でもちょっと前まではたぶんSNSじゃなくてテレビだったと思います。テレビというのは受動的に情報が入ってくるので、本を読むよりは何</p>

<p>委員長</p>	<p>もしなくても目に入ってくるものなので、きっとそういう働きかけをしないと本の時間はとれないという話だったかと思うんです。</p> <p>なので、当然今の時代に合わせた整備も考えなければいけないのだけれど、その整備をするだけで本に行くかというところではなくて、本というものは出会いがとっても大事なと思います。実は私も中学校の教員を経て今の仕事をしているのですが、会田さんも多分感じているんでしょうけど、朝読書を始めてから子どもたちは変わりましたよね。朝読書する前の子どもたちは本にほとんど触れていなかったけれど、朝読書始まってからは自習の余り時間などで本読んでもいいですかという子が増えてきた。その子たちはきっと朝読書で自分が興味を持てるいい本と出会ったから、自由な時間を本に使いたいと思って本を読むんですよね。だから本というものは、出会いが大事だと思います。だから子どもたちにはそういう出会いの場をいっぱい作ってあげることと、その子に合う本とのマッチングをうまくしてあげることが、子どもが本を好きになる場所なんだろうと思います。</p> <p>そうすると、さきほど会田委員が言われた、図書館にいて背表紙だけでは分からないので、司書の方が本を紹介しているコーナーがなど、そういう出会いの場と良い出会いがあると、きっと子どもは本好きになるんだらうなって、だからそういう機会をいっぱい作ってあげる必要があるんだらうと思います。</p> <p>また、子どもたちの図書館の利用と本の利用は別だと思っています。どうしても中学生なんかは時間がないので、図書館に行こうと行って近所の子は来ることができるかもしれないけど遠くの子は来れない。図書館利用だけが子どもの読書推進ではないってことだと思います。良い本に出会ったら、また積極的に本に向かっていくだろうし、図書館はひとつの提供する場ではあるだろうけれど、本との関わりの部分と、図書館との関わりは少し違う所で考えていかなければならないと、今日のお話を聞いて思いました。</p> <p>とても良いご意見ありがとうございました。なんとか良い本に子どもを出会わせたいという思いは、大人はみんなあるんですよ。私の意見ですが、たまたまうちの娘が今アメリカに住んでいて子育てをやっています。私も時々行きます。アメリカという所は図書館学を学ぶ人たち、松岡享子さんとか子どもの幼い文学を考えた人たちは、一回は</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

行っているんですね。それから渡辺茂男さんも図書館学を学んで、それを日本で普及するわけですね。それでアメリカに行くと、アメリカの図書館は今どうなっているのだろうと関心があります。

ひとつおもしろかったのは、アメリカのお父さんやお母さんは忙しいみたいで、どうやって本を選んでいるのかとおもったら、それぞれの年代ごとに司書がおすすめる本があって布バッグに入れて置いてあるんですよ。3歳から4歳向けの今月の本とか、そうしたバッグが棚に置いてあって、お母さん方はそれをサッと取っていくんです。司書の方たちが地域の人たちに信頼されているんですね。小学校中学校高校生向けの袋もあって、それに2冊本が入っているんですね。それを1週間、10日くらいで返すんですけど、いつもそれがチェンジされてあるんです。そういう出会いの場でもありました。

それからもうひとつおもしろかったのは、散歩コースの林の中に、そこに奇妙なものがあって、近づいて行ったら本があったんです。それを娘に聞きましたら、ちゃんとした名前があってリトルフリーライブラリーというものだそうです。小さなドールハウスのようなもので、ガラス戸があってそこに本があるんですよ。勝手にこの本を借りていいんです。それで勝手に返すんですよ。NPOがやっているらしくて建てた人が管理するんですけど、本棚の中をボーイスカウトやガールスカウトが掃除したりしている。それでこの本棚が1キロや2キロにわたってあるんですね。それで好き勝手に本を取ってまた返す。願わくば借りた人がまた自分のおすすめの本を置いてくという取組が定着して図書館の人も関わっている。日本だと誰が金を出すのか、誰が管理するのかとなりますが。雨露をしのげるような感じで屋根がある小さな箱なんです。そういった身近なところとにかく本を置くことが、今アメリカ全土に広がっていて、調べましたら日本でもあるそうです。そうやって、あの手この手で子どもたちに本を貸出して本を提供するという流れが感じられました。

昔から図書館学がアメリカは伝統的に発達しているんですけど、この頃はアメリカでも青少年が本を読まなくて困っているというんですね。日本では大学生が本を1年間で1冊も読まないという話が出ていました。本当に残念ですが読まないんですよ。それをなんとかアメリカではあの手この手をやってるなという感じはしました。図書館では忙しい保護者に対して年齢ごとに本を用意して、それをサッと借りていくというのを見てきました。だから日本でもアメリカでもいろいろ

<p>事務局・梅沢中央 図書館長補佐</p>	<p>考えているんだなっていうのはわかったんですけども、できるだけこのタイトルにもあったように、傍らに本をと願っていますがなかなか成果が表れないのは残念なことです。</p> <p>私が30年前秋田にいたときに、秋田は読書推進運動が本当に盛んで、最初は30（さんまる）運動という親子で30分本を読みあいましようという運動をしていたんです。それでも、なかなか本を読まないということになって、低学年くらいまでのいろいろな推薦本のパンフレットを作りました。これを秋田県の全県で子どもたちのいるところ、小児科の窓口、子育て支援、小学校の低学年、幼稚園保育園に置きました。それを見て0歳から2歳の子はこんな本がいいのかなって、こういうのがロングセラーになっているんだなっていうのを保護者がわかって、図書館で借りたり本屋さんで買ったりする。これを秋田県の親御さんたちは目安にしていたんです。それでその成果が、20年かかってやっと表れたと教育委員長がおっしゃっていました。今から5、6年くらい前です。なので、私たちがしている活動も、種をまいたらいつか実を結ぶと考えています。今日はとても充実した意見をうかがって良かったなあとと思っています。皆さんの意見もきかせていただきましてありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第1回第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会を閉会します。</p> <p>本日は長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>